

テレメータ <b>D3</b> シリーズ		
<b>取扱説明書</b>	専用回線符号品目、Modbus、1対n専用	形式
	<b>50 bps 通信カード</b>	<b>D3-LT4</b>

## ご使用いただく前に

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

### ■梱包内容を確認して下さい

・ 50 bps 通信カード .....1 台

### ■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

### ■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

## ご注意事項

### ●取扱いについて

- ・ 本体の取外または取付を行う場合は、危険防止のため必ず、電源を遮断して下さい。
- ・ 本器のスイッチ類は、通電時に操作しないで下さい。スイッチによる設定変更は、電源が遮断された状態で行って下さい。

### ●設置について

- ・ 屋内でご使用下さい。
- ・ 塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。
- ・ 振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。
- ・ 周囲温度が  $-10 \sim +55^{\circ}\text{C}$  を超えるような場所、周囲湿度が  $30 \sim 90\% \text{ RH}$  を超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

### ●配線について

- ・ 配線は、ノイズ発生源（リレー駆動線、高周波ラインなど）の近くに設置しないで下さい。
- ・ ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。

### ●その他

- ・ 本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには 10 分の通電が必要です。

## 取付方法

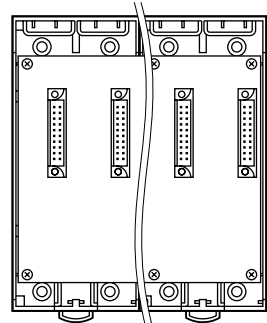
ベース（形式：D3-BS）、アドレス可変形ベース（形式：D3-BSW）をお使い下さい。ただし、通信カード（形式：D3-LT4）をベースに取付ける前に、下記の項目を行って下さい。

### ■ノードアドレス、スロット割付、マスタ/スレーブ切替などの設定

必ずカードを取付ける前に、ノードアドレス、スロット割付、マスタ/スレーブ切替などを設定して下さい。

### ■ベースへの取付

I/O1/I/O2... I/O<sub>n</sub>



電源カードは、全てのスロットに実装可能ですが、基本的にはベースの右側に実装して下さい。

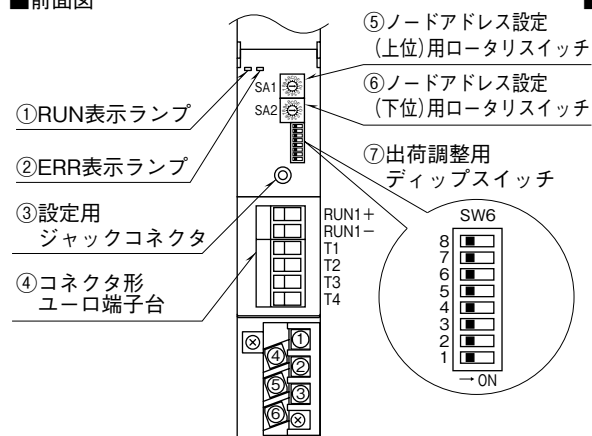
D3-BSW には、ロータリスイッチによりスロット番号が任意に設定することができます。これにより、実装するスロットを自由に変更することができます。

## 保証

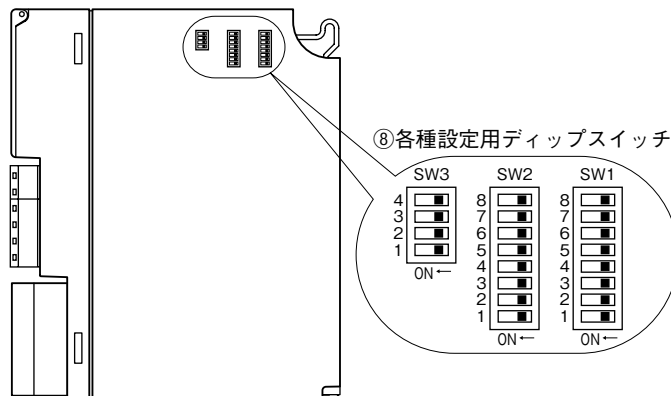
本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後 3 年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。

# 各部の名称

■前面図



■側面図



## ■前面スイッチの設定

### ●ノードアドレス設定 (SA1、SA2)

2 個のロータリスイッチにより、ノードアドレスを 16 進数で設定します (設定有効範囲: 01 ~ F7)。

### ●出荷調整用ディップスイッチ (SW6)

ご使用の際は必ず全て OFF にして下さい。

## ■側面ディップスイッチの設定

(\*) は工場出荷時の設定

### ●スロット割付の設定 (SW1、2)

相手局のスロットの占有エリアを設定します。D3 シリーズの入出力カードには、入出力点数により、占有エリア (データ量) の異なる 4 種のタイプがあります。このため、各スロットにどのタイプの入出力カードを実装するかを SW1 および SW2 にて設定します。

SW1 および SW2 により、スロット 1 からスロット 8 を任意に設定することができます。スロット 9 以降はスロット 8 と同じタイプのカードとなります (各スロットの設定は、2 ビットにて設定します)。

SW		占有エリア (データ数)
SW1-1	SW1-2	スロット 1
SW1-3	SW1-4	スロット 2
SW1-5	SW1-6	スロット 3
SW1-7	SW1-8	スロット 4
SW2-1	SW2-2	スロット 5
SW2-3	SW2-4	スロット 6
SW2-5	SW2-6	スロット 7
SW2-7	SW2-8	スロット 8
OFF	OFF	1
ON	OFF	4
OFF	ON	8
ON	ON	16

### ●機能設定 (SW3)

通信カードの機能を設定します。

#### ・ランプ表示切替設定 (SW3-1)

前面の RUN、ERR のランプの表示内容を切替えます。詳しくは、解説をご覧ください。

SW3-1	ランプ表示切替	
	RUN	ERR
OFF(*)	正常時 緑色点灯	異常時 緑色点灯 内部回路異常時 緑色点滅
ON	データ受信時 赤色点滅	データ送信時 赤色点滅

#### ・マスタ/スレーブ切替設定 (SW3-2)

必ず一方をマスタに、他方をスレーブに設定して下さい。“OFF” にすると「スレーブ」、 “ON” にすると「マスタ」になります。

SW	マスタ/スレーブ切替	
	マスタ	スレーブ
SW3-2	ON	OFF(*)

#### ・強制キャリア出力設定 (SW3-3)

回線のチェック時に使用します。通常は “OFF” でご使用下さい。

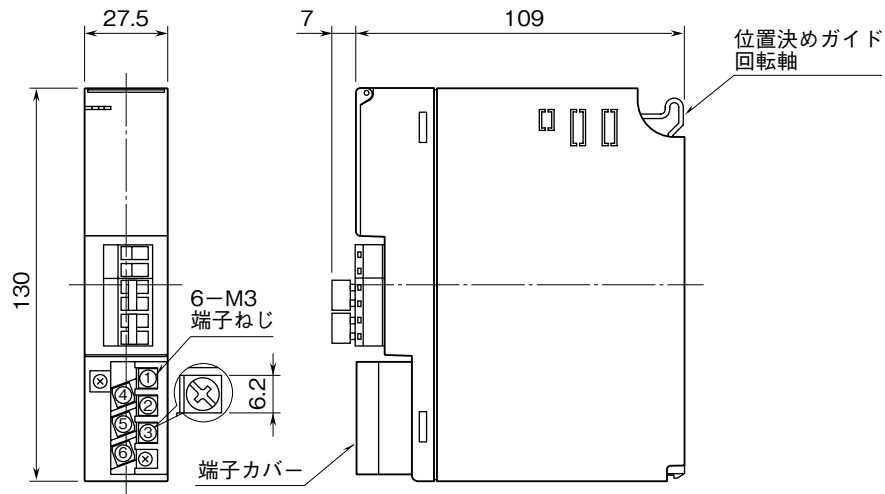
SW	強制キャリア出力	
	通常モード	強制キャリア出力
SW3-3	OFF(*)	ON

注) SW3-4 は未使用のため、必ず “OFF” にして下さい。

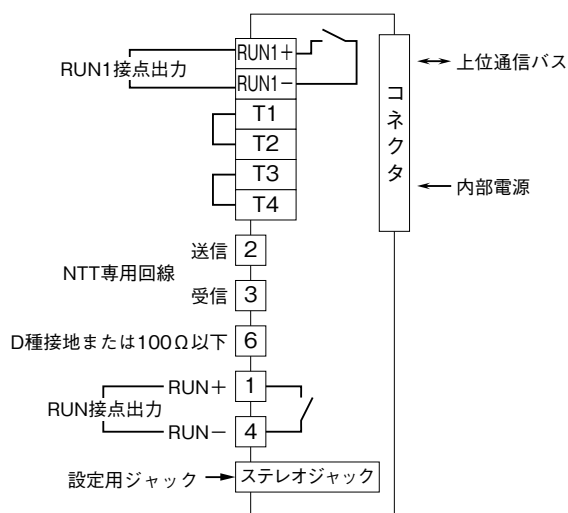
## 接 続

各端子の接続は端子接続図を参考にして行って下さい。

### 外形寸法図 (単位: mm)



### 端子接続図



## 配 線

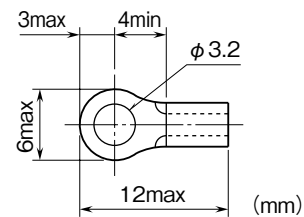
■M3 ねじ端子 (NTT 専用回線、RUN 接点出力)  
締付トルク: 0.5 N·m

### ■圧着端子

圧着端子は、下図の寸法範囲のものを使用して下さい。また、Y形端子を使用される場合も適用寸法は下図に準じます。

推奨圧着端子: R 1.25 - 3 (日本圧着端子製造、ニチフ)  
(スリーブ付圧着端子は使用不可)

適用電線: 0.75 ~ 1.25 mm<sup>2</sup>

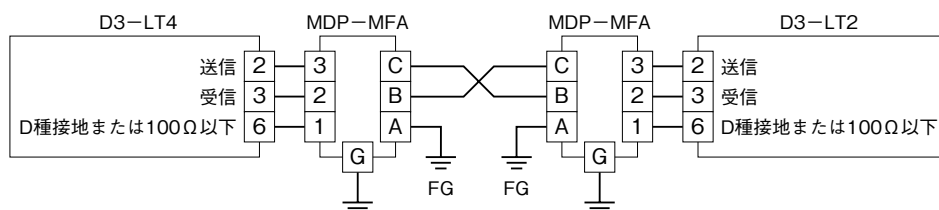


### ■コネクタ形ユーロ端子台 (RUN1 接点出力)

適用電線: 0.2 ~ 2.5 mm<sup>2</sup>

剥離長: 7 mm

## 通信 (専用回線) ケーブルの配線



## コンフィギュレータソフトウェア設定

コンフィギュレータソフトウェアを用いることにより、以下の設定が可能です。

コンフィギュレータソフトウェア（形式：D3CON）の使用方法については、D3CONの取扱説明書をご覧ください。

### ■通信設定

項目	設定範囲	初期値
Time (未通信検出時間)	2~32000 (0.1 秒)	512 (0.1 秒)

### ■入出力カード異常検出設定（スロット個別設定）

項目	設定範囲	初期値
Slot check (入出力カードチェック)	0: Non Check 1: Check	0: Non Check

## Modbus ファンクションコード

### ■Data and Control Functions

CODE	NAME		
01	Read Coil Status	<input type="radio"/>	Digital output from the slave (read/write)
02	Read Input Status	<input type="radio"/>	Status of digital inputs to the slave (read only)
03	Read Holding Registers	<input type="radio"/>	General purpose register within the slave (read/write)
04	Read Input Registers	<input type="radio"/>	Collected data from the field by the slave (read only)
05	Force Single Coil	<input type="radio"/>	Digital output from the slave (read/write)
06	Preset Single Register	<input type="radio"/>	General purpose register within the slave (read/write)
07	Read Exception Status		
08	Diagnostics	<input type="radio"/>	
09	Program 484		
10	Poll 484		
11	Fetch Comm. Event Counter	<input type="radio"/>	Fetch a status word and an event counter
12	Fetch Comm. Event Log	<input type="radio"/>	A status word, an event counter, a message count and a field of event bytes
13	Program Controller		
14	Poll Controller		
15	Force Multiple Coils	<input type="radio"/>	Digital output from the slave (read/write)
16	Preset Multiple Registers	<input type="radio"/>	General purpose register within the slave (read/write)
17	Report Slave ID		
18	Program 884/M84		
19	Reset Comm. Link		
20	Read General Reference		
21	Write General Reference		
22	Mask Write 4X Register		
23	Read/Write 4X Registers		
24	Read FIFO Queue		

### ■Exception Codes

CODE	NAME		
01	Illegal Function	<input type="radio"/>	Function code is not allowable for the slave
02	Illegal Data Address	<input type="radio"/>	Address is not available within the slave
03	Illegal Data Value	<input type="radio"/>	Data is not valid for the function
04	Slave Device Failure		
05	Acknowledge		
06	Slave Device Busy		
07	Negative Acknowledge		
08	Memory Parity Error		

### ■Diagnostic Subfunctions

CODE	NAME		
00	Return Query Data	<input type="radio"/>	Loop back test
01	Restart Comm. Option	<input type="radio"/>	Reset the slave and clear all counters
02	Return Diagnostic Register	<input type="radio"/>	Contents of the diagnostic data (2 bytes)
03	Change Input Delimiter Character	<input type="radio"/>	Delimiter character of ASCII message
04	Force Slave to Listen Only Mode	<input type="radio"/>	Force the slave into Listen Only Mode

## Modbus I / O 割付

	ADDRESS	DATA TYPE	DATA
Coil (0X)	1 ~ 1024		Digital output (接点出力)
Input (1X)	1 ~ 1024		Digital input (接点入力)
	1025 ~ 1040		カード情報
	1041 ~ 1056		異常情報
	1057 ~ 1072		データ異常情報
Input Register (3X)	1 ~ 256	I	Analog Input (アナログ入力)
	257 ~ 768	F	Analog Input (アナログ入力)
Holding Register (4X)	1 ~ 256	I	Analog output (アナログ出力)
	257 ~ 768	F	Analog output (アナログ出力)

### ■DATA TYPE

I : Int 0 ~ 10000 (0 ~ 100 %)

F : Floating (32 ビットデータは、Floating アドレスでアクセスすることはできません)

注) 上記以外のアドレスにはアクセスしないで下さい。誤動作等の原因になります。

#### ①カード情報

各カードの実装 (有無) 状態を示します。

カードが実装されている場合、対応するビットが“1”、未実装の場合、“0”となります。

#### ②異常情報

各カードの異常を示します。

- ・ D3-TS □、D3-RS □の入力がバーンアウト
- ・ D3-DA16A の入力電源が異常、または未接続
- ・ D3-YS □の出力電流が異常 (負荷未接続など)
- ・ D3-PC16A の外部供給電源が異常、または未接続

上記の状態が発生した場合、対応するビットが“1”となります。

#### ③データ異常情報

各入力カードの入力値が -15 % 以下または 115 % 以上の場合、対応するビットが“1”となります。

## 伝送データ

本体側面のディップスイッチにより、各入出力カードの伝送データ数 (占有エリア) を設定することができます。

例えば、下記のように設定した場合

スロット 1	4
スロット 2	4
スロット 3	4
スロット 4	1
スロット 5	1
スロット 6	1
スロット 7	1

入出力データは次のように割付けられます。

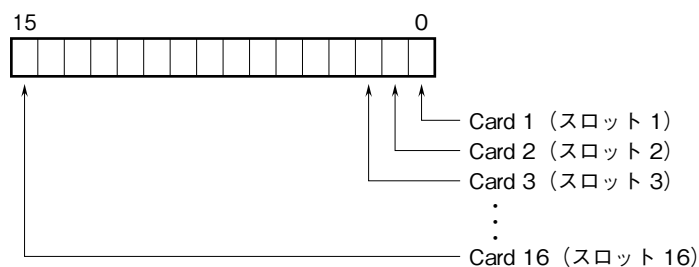
	ADDRESS	カード位置
Input Register (3X)	1 ~ 4、257 ~ 264	スロット 1
Holding Register (4X)	5 ~ 8、265 ~ 272	スロット 2
	9 ~ 12、273 ~ 280	スロット 3
	13、281 ~ 282	スロット 4
	14、283 ~ 284	スロット 5
	15、285 ~ 286	スロット 6
	16、287 ~ 288	スロット 7

	ADDRESS	カード位置
Coil (0X)	1 ~ 64	スロット 1
Input (1X)	65 ~ 128	スロット 2
	129 ~ 192	スロット 3
	193 ~ 208	スロット 4
	209 ~ 224	スロット 5
	225 ~ 240	スロット 6
	241 ~ 256	スロット 7

注) Coil (0X)、Input (1X) の割付は、伝送データ数 (占有エリア) が“1”または“4”の場合には、伝送データ数を 16 倍したアドレスを割付けます。伝送データ数が“8”または“16”の場合には、強制的に 64 (4 × 16) のアドレスを割付けます。

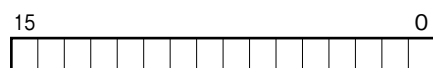
## 入出力データ

### ■カード情報、異常情報、データ異常情報



各スロットの入出力カードの有無および異常を示します。

### ■アナログデータ (16ビットデータ長、形式：D3-SV4、YV4、DS4、YS4 など)



#### 16ビットのバイナリデータ

基本的に、各カードで設定されている入出力レンジの0～100%を0～10000のバイナリ（2進数）で示します。  
-15～0%の負の値は2の補数で示します。

### ■アナログデータ (16ビットデータ長、形式：D3-RS4、TS4 など)

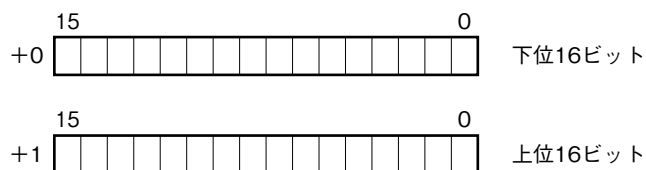


#### 16ビットのバイナリデータ

基本的に、温度単位が摂氏（℃）の場合には10倍した整数部を示します。例えば、25.5℃の場合は“255”がデータとなります。また、温度単位が華氏（℉）の場合には整数部がそのままデータとなります。例えば、135.4 ℉の場合は“135”がデータとなります。

負の値は2の補数で示します。

### ■アナログデータ (32ビットデータ長、形式：D3-BA32A、BC32A など)

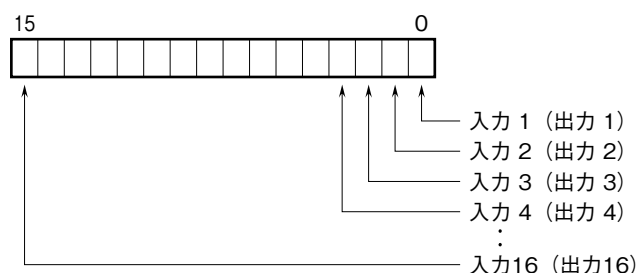


BCDコードデータは、32ビット長のバイナリデータです。

低アドレスから順に下位16ビット、上位16ビットが配置されます。

32ビットデータは、Floatingアドレスでアクセスすることはできません。

### ■16点用接点データ (形式：D3-DA16、DC16 など)



0 : OFF

1 : ON

## 解 説

### ■相手局の通信カード

本器は D3-LT2 と通信します。相手局は必ず D3-LT2 を使用して下さい (D3-LT4 同士の通信はできません)。

### ■上位通信機能

本器は上位通信カード (形式: D3-NM2、D3-NE2) と組合わせてご使用下さい。組合わせて使用することで PLC やパソコンのスレーブ局として動作します。ノードアドレスは上位に通信する通信プロトコル (Modbus、Modbus / TCP) の使用に合わせて設定して下さい。また、本器は同一ベース上に複数枚を実装できますので、ノードアドレスを設定する際は重複しないように設定して下さい。

### ■上位通信カードの入力データ

相手局との通信に異常が発生すると最終値で保持し、相手局との通信が再開されるまで入力データを更新しません (ファームウェアバージョン 0.13 以前では“0”リセット)。なお、カード情報、異常情報、データ異常情報は“0”リセットになります。

### ■入出力カード

本器は入出力カードを同一ベース上で使用できません。入出力カードを同一ベース上に実装した場合には正常に動作しませんのでご注意下さい。

### ■入出力カード異常検出設定

相手局 (形式: D3-LT2) の入出力カードの故障、落脱等を RUN 接点出力にて検出する機能です。設定は D3CON にて行います。設定方法等の詳細は D3CON の取扱説明書を参照して下さい。

### ■RUN 接点出力と表示ランプ

#### ●表示ランプ

前面のランプは、側面のディップスイッチ (SW3-1) により 2 種類の状態を表示します。

#### ①回線の通信状態のみ確認したい場合 (SW3-1 が ON)

専用回線の通信状態を表示します。

RUN 表示ランプはデータ受信時に赤色に点滅し、ERR 表示ランプはデータ送信時に赤色に点滅します。

#### ②上位通信、データ送受信などの異常を確認したい場合 (SW3-1 が OFF)

RUN 表示ランプは相手局から正常にデータを受信すると、緑色に点灯します。

ERR 表示ランプは相手局から正常にデータを受信し、内部通信・上位通信が正常な場合に消灯します。

- ・相手局から正常にデータを受信できない。
- ・内部通信が正常に行えない。
- ・上位通信が正常に行えない。

上記のような場合は緑色に点灯し、内部回路異常時は緑色に点滅します。

#### ●RUN □接点出力

##### ① RUN1 接点出力

通信 (専用回線) 異常を検出します。

< ON 条件 >

相手局から正常にデータを受信している場合。

< OFF 条件 >

- ・マスタ局 (SW3-2 が ON) の場合

スレーブ局から正常にデータを受信しない場合 (伝送時間:  $T_m$  の約 4 倍の時間後 OFF となります)。

- ・スレーブ局 (SW3-2 が OFF) の場合

マスタ局から正常にデータを受信しない場合 (未通信検出時間の約 4 倍の時間後 OFF となります。未通信検出時間はコンフィギュレータソフトウェア (形式: D3CON) にて設定可能です。未通信検出時間の初期値は 51.2 秒です)。

##### ② RUN 接点出力

通信 (専用回線) 異常と上位通信異常を検出します。

< ON 条件 >

相手局から正常にデータを受信していて、かつ、上位機器と正常にデータを送受信している場合。

< OFF 条件 >

相手局から正常にデータを受信しない場合。または、上位機器と正常にデータを送受信しない場合。

例) 通信設定 (アドレス等) が正常でない。

### ■伝送時間

伝送時間は、スレーブ局に実装しているカードの種類と枚数により決まります。マスタ局の伝送時間はスレーブ局に実装しているカードと対となるカード（アナログ入力カードを実装している場合は出力カード）の伝送時間と同様になります。

$T_c$ （構成データと待ち時間） = 4.8 秒  
 $T_{a1}$ （アナログ 4 点入力カード 1 枚の伝送時間） = 2.2 秒  
 $T_{a2}$ （アナログ 8 点入力カード 1 枚の伝送時間） = 3.8 秒  
 $T_{a3}$ （アナログ 16 点入力カード 1 枚の伝送時間） = 7.4 秒  
 $T_{d1}$ （デジタル 16 点入力カード 1 枚の伝送時間） = 0.6 秒  
 $T_{d2}$ （デジタル 32 点入力カード 1 枚の伝送時間） = 2.2 秒  
 $T_{d3}$ （デジタル 64 点入力カード 1 枚の伝送時間） = 2.2 秒  
 $T_{out}$ （出力カード 1 枚の伝送時間） = 0.2 秒

アナログ 4 点入力カードの枚数を  $N_{a1}$ 、アナログ 8 点入力カードの枚数を  $N_{a2}$ 、アナログ 16 点入力カードの枚数を  $N_{a3}$ 、デジタル 16 点入力カードの枚数を  $N_{d1}$ 、デジタル 32 点入力カードの枚数を  $N_{d2}$ 、デジタル 64 点入力カードの枚数を  $N_{d3}$ 、出力カードの枚数を  $N_{out}$  とすると 1 局の伝送時間（ $T_m$  または  $T_s$ ）は下記の式で求めることができます。

$$T_m(T_s) = T_c + (T_{a1} \times N_{a1}) + (T_{a2} \times N_{a2}) + (T_{a3} \times N_{a3}) + (T_{d1} \times N_{d1}) + (T_{d2} \times N_{d2}) + (T_{d3} \times N_{d3}) + (T_{out} \times N_{out})$$

総伝送時間（1 局が伝送を開始したときから再度伝送を開始するまでの時間）は、マスタ局の伝送時間とスレーブ局の伝送時間の和として求めることができます。

$$T = T_m + T_s$$

スレーブ局にアナログ 4 点入力カードが 2 枚、デジタル 16 点入力カードが 4 枚、アナログ出力カードが 2 枚、デジタル出力カードが 3 枚、実装されている場合マスタ局はアナログ 4 点入力カードが 2 枚、デジタル 16 点入力カードが 3 枚、アナログ出力カードが 2 枚、デジタル出力カードが 4 枚の伝送時間と同等となるので、下記のように求めることができます。

$$\begin{aligned}
 T_s &= 4.8 + (2.2 \times 2) + (0.6 \times 3) + (0.2 \times (2 + 4)) = 12.2 \text{ 秒} \\
 T_m &= 4.8 + (2.2 \times 2) + (0.6 \times 4) + (0.2 \times (2 + 3)) = 12.6 \text{ 秒} \\
 T &= T_m + T_s = 12.6 + 12.2 = 24.8 \text{ 秒}
 \end{aligned}$$

### ■伝達時間

伝達時間（1 局に入力を変化させ、相手局の出力が変化を開始するまでの時間）は、入力の変化と送信を開始するタイミングにより大きく変化します。例えば、マスタ局からスレーブ局への伝達時間（ $T_{m\_max}$ ）は下記のような範囲となります。

$$T_m < T_{m\_max} < T_m + T_s + T_m$$

同様にスレーブ局からマスタ局への伝達時間（ $T_{s\_max}$ ）は下記のような範囲となります。

$$T_s < T_{s\_max} < T_s + T_m + T_s$$

伝送時間の構成例において、伝達時間を求めると

$$\begin{aligned}
 T_{m\_max} &= 12.6 \sim 37.4 \text{ 秒} \\
 T_{s\_max} &= 12.2 \sim 37.0 \text{ 秒}
 \end{aligned}$$

となります。



## 50 bps 専用回線の接続

### 1. NTT 専用回線

NTT 専用回線符号品目 50 bps の基本的な電気的規格は、次のように規定されています。

送出電流：20 mA ± 3 mA  
 送出電圧（対地）：50 V 以下  
 送出パルス幅：20 ms 以上

D3-LT4 は、これらの規格値を満足するため定電流回路、定電圧回路および送出パルス幅制限回路を備えているので、正常な回線では調整などの必要はありません。しかし、回線の電線抵抗が異常に大きい場合や接地が不良の場合などでは、定電流回路が動かなくなることがあります。

この場合、接地を改善するか NTT に連絡し、回線を改善しなければなりません。

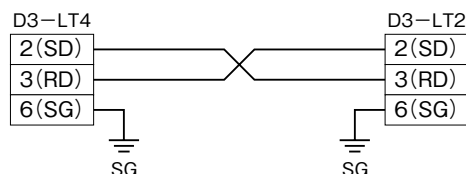
### 2. NTT 専用回線の接続

NTT 専用回線は一对の回線なので端子“3 (RD)”と“2 (SD)”に接続します。この場合、専用回線的一对の電線は動きが異なります。接続が逆の場合には通信ができないので注意が必要です。また、“アースリターン”と呼ばれる方式を用いているので、SG にアース線（接地線）を接続して下さい。

50 bps 用は、“NTT 専用回線符号品目 50 bps”と呼ばれる回線を用います。この回線は、原理的には相手と直接一对の電線で接続されていると考えることができます。しかし、一对の電線では、信号の送受信を同時に行うことはできないため、第3の電線として“アース（接地線）”を用いて可能にします（この伝送方式を“アースリターン”と呼びます）。このため、アース（接地）がしっかりしていないと互いの通信ができないことや、通信異常の原因となりますので、必ず“D 種接地”で接地して下さい。

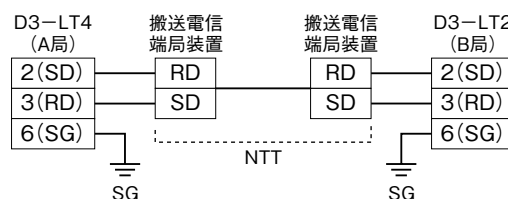
原理的には、2本の電線で接続されているように見える回線も、加入区域が異なる場合や使用回線数が非常に多い区域などでは搬送電信端局装置と呼ばれる機器を中継し、接続されることがあります。直接電線で接続されている場合と搬送電信端局装置で中継されている場合とでは、配線の確認方法が異なるので注意しなければなりません。搬送電信端局装置の中継の有無は NTT 所轄局に確認して下さい。

#### ■直接電線で接続



搬送電信端局装置で中継していない場合、接続は上図のようになります。回線の接続は“2 (SD)”と“3 (RD)”との接続が逆になっていることがあるので、どちらかのユニットの接続を逆にすることにより正常になります。

#### ■搬送電信端局装置で中継して接続



搬送電信端局装置で中継している場合、接続は上図のようになります。回線の接続は A 局側で配線が逆の場合と B 局側で配線が逆の場合があるので、2か所での配線チェックが必要です。配線が逆の場合はそれぞれ“3 (RD)”と“2 (SD)”を逆にします。

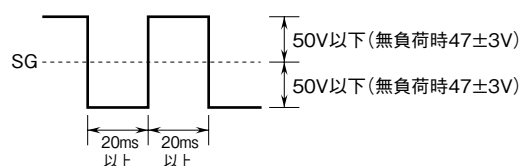
### 3. 送出信号

#### (1) 送出電圧

送出電圧は、SG に対し 50 V 以下でなければなりません。電圧が低くなると回線の電線抵抗が大きい場合など送出電流の規格内に収まらなくなります。このため送出電圧は高いほど有利になります。

送出電圧は、端子“2 (SD)”と“6 (SG)”間で測定します。専用回線の抵抗値により電圧値は異なるので低値を示しても異常ではありません。ただし、専用回線の抵抗値と接地抵抗の和が 1 k Ω の場合は 20 V 以上の値になります。一般的には 20 ~ 50 V の範囲であれば正常です。

送出最大電圧の確認は、専用回線を外した状態で確認しなければなりません（出力回路は定電流回路なので、専用回線の抵抗値により内部消費電圧が変化します。このため正確な電圧を測定することができません）。



## (2) 送出電流

D3-LT4 入出力部に定電流回路を内蔵しているため、送出電流や受信電流を調整する必要はありません。しかし、専用回線の状態が規格より悪い場合があるので、送出電流と受信電流を測定することをお勧めします。

### ■送出電流の確認

回線テスト用端子の“T1”と“T2”および“T3”と“T4”はショートピンで短絡状態になっています。この“T1”と“T2”を短絡しているショートピンを取外し、直流電流計を接続します。測定値が“+20 mA ± 3 mA”または“-20 mA ± 3 mA”であれば正常です。

### ■受信電流の確認

回線テスト用端子の“T1”と“T2”および“T3”と“T4”はショートピンで短絡状態になっています。この“T3”と“T4”を短絡しているショートピンを取外し、直流電流計を接続します。測定値が“+20 mA ± 3 mA”または“-20 mA ± 3 mA”であれば正常です。

注) 送出電流や受信電流を測定する場合には、通常の設定では通信が開始し正常に測定できません。必ず A 局、B 局共に“スレーブ”（側面のディップスイッチ SW3-2 を“OFF”）に設定して下さい。この状態で、SW3-3 を“ON” にすることにより、出力電流は反転します。  
電流測定後は、必ずディップスイッチをもとの状態に戻して下さい。